

## 産業廃棄物の削減

産業廃棄物の有効利用を進めましたが、最終埋立率2%以下の目標は若干の未達でした。

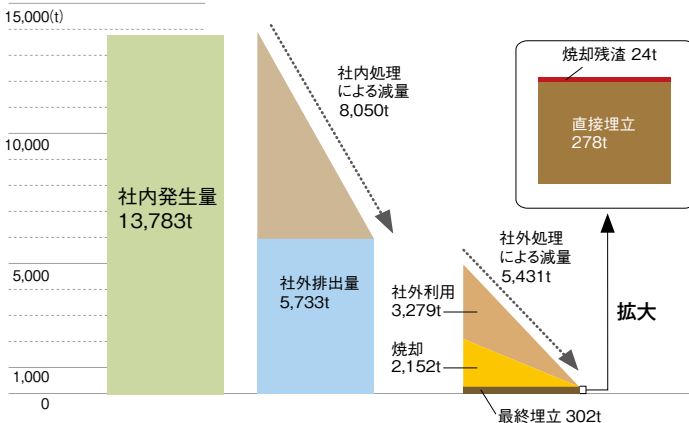
2010年度は、廃溶剤などの有効利用に取り組み2,719tを有価物として売却しました。

富士工場では脱水汚泥と焼却灰について燃料やセメントなどへのリサイクルにより最終埋立量を38%減量する成果を上げました。

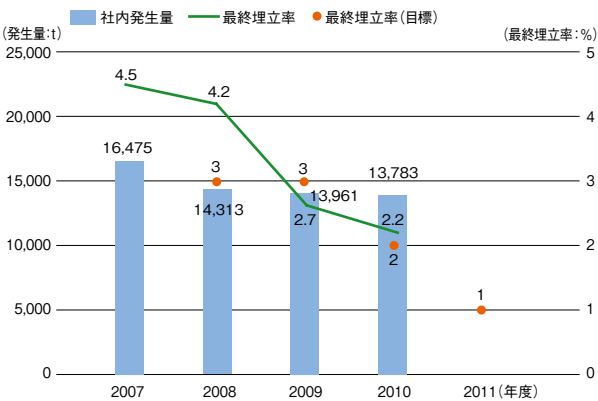
これらの対策実施の結果、最終埋立量は2009年度比20%減の302tとなりました。最終埋立率※は2.7%から2.2%に減少も、2010年度の目標(2%以下)には若干未達でした。

※最終埋立率=(最終埋立量/社内発生量)×100(%)

■2010年度 産業廃棄物処理フロー



■産業廃棄物の推移



### ●今後の取り組み

- ・リサイクル利用や焼却処理を推進し、最終埋立率の目標を2011年度は1%以下として取り組んでいきます。

## VOICE

### 富士工場での廃棄物削減への取り組み

富士工場では埋立処分  
で排出していた廃棄物を、  
2010年度からできる限り  
リサイクルに回すように社  
外の処理業者の選定やリ  
サイクル方法を検討しまし  
た。富士工場で排出される  
廃棄物は、廃水処理場から  
出される脱水汚泥、製造工  
程より出されたる過残さ、  
廃燃プラントより出される焼却灰及びばいじんに  
分類されます。このうち、脱水汚泥が富士工場の廃  
棄物全体の9割以上を占め、社外で焼却燃料化す  
ることで2010年度の埋立排出量は3割減となりま  
した。



富士工場  
事務課業務係  
谷口 信宏

現在は最終埋立率の目標値2012年度1%以下  
と、ゼロエミッションを目指し取り組んでいますが、  
当工場において廃プラスチックの混載と呼んでい  
る、はっきりと分別ができない使用済みのホースや  
GAF(布袋でろ過)などのろ過フィルター、その他  
細々としたものの分別や、分別するための保管ス  
ペースの確保など様々な課題について今後も検討  
を重ねていきます。

## 土壌汚染対策

土壌汚染の自主検査を適切に実施し、  
現状把握に努めています。

荒川化学グループの工場では、「土壌汚染対策法」で  
規定する特定有害物質を使用しています。

土壌を掘削し場外へ排出する工事をおこなう場合は土  
壌サンプルを採取し、特定有害物質や油分の含有、pHなど  
の分析をおこない、土壌汚染が発見された時には対策を実  
施します。2010年度は土壌汚染対策法に関わる形質変  
更、売却などの事例は発生しませんでした。

2010年4月に改正土壌汚染対策法が施行されました  
が、適正な対応をおこなっています。